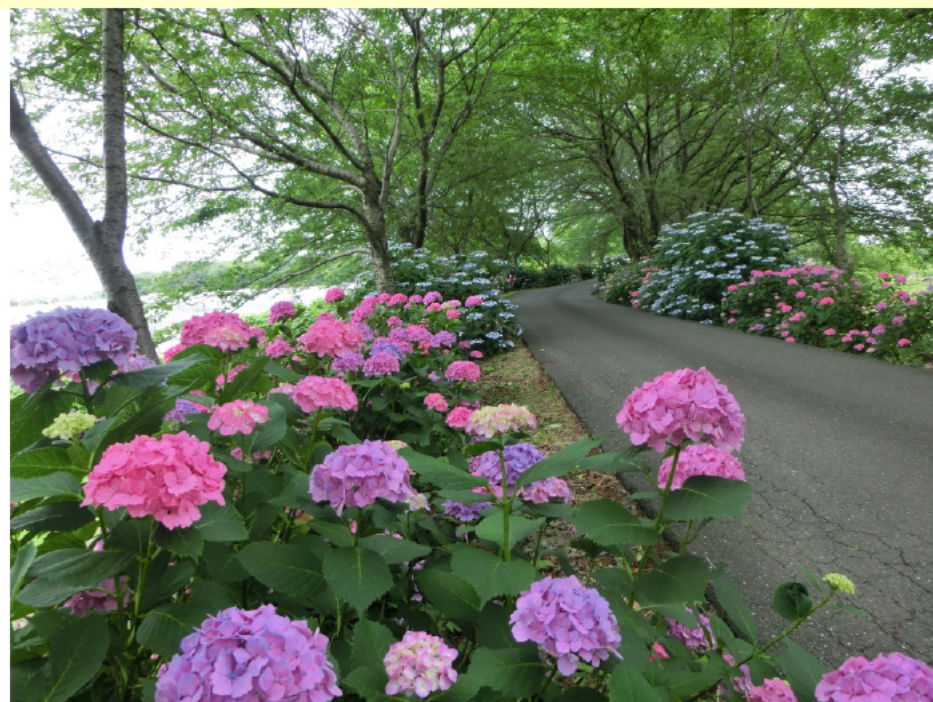


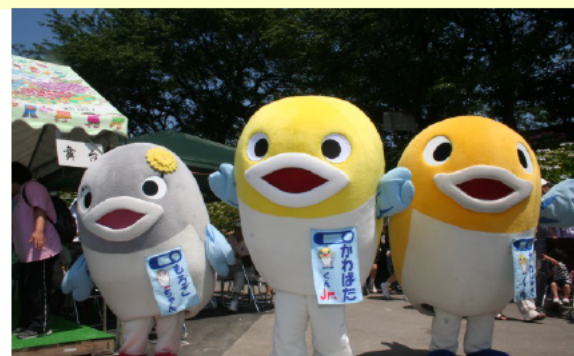


平成26年6月15日撮影

- ・ 岐阜県安八郡輪之内町^{ほとんど}本戸地区のたいしょう池付近で、「第6回あじさいまつり2014」が開かれた6月15日（日）、気温30°を超える夏日となり、会場を訪れた約3,500人の来場者は咲き誇ったアジサイと多彩な催しを楽しみました。本戸地区の田んぼに、町のキャラクターの「かわばたくん」、富士山などの絵柄を苗で描いた「田んぼアート」がくっつきり現れ、会場では地元地区住民や町職員らによる露店が並び、祭りを盛り上げていました。
- また、同町のゆるキャラかわばたくんともろこちゃんの子供「かわばたくんJr」の着ぐるみがお披露目され、親子らに大人気でした。



福束輪中堤や田んぼの脇には、地域住民が植えた20品種約6,000本のアジサイが植えられています。



家族連れに人気だったかわばたくんJr（中）

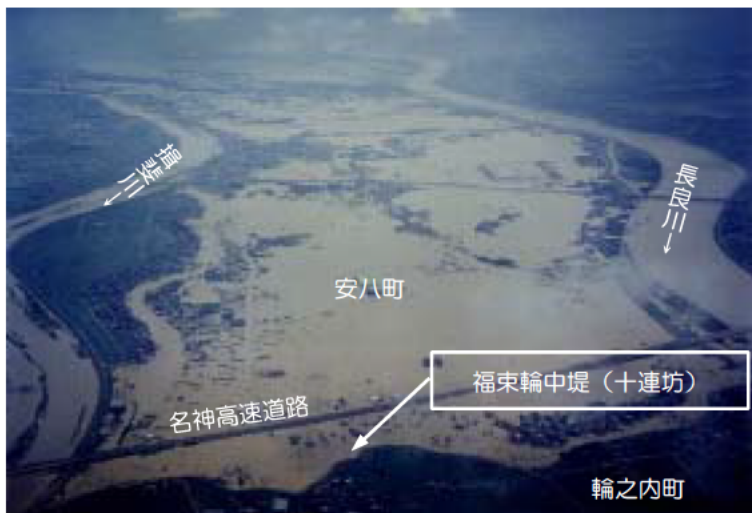


祭りを盛り上げた露店は、子供たちで大賑わい

あじさい祭りが開催された本戸地区は、福束輪中の最北端に位置し、安八町との境界には「アジサイロード」と呼ばれる福束輪中堤「十連坊」があり、輪中堤の日常管理は輪之内町によって行われています。今回、あじさい祭りに訪れ、十連坊を散策する中で見つけた「水」に関わる遺跡やその云われなどをご紹介します。

■水害から街を守った福束輪中堤（十連坊）

- 昭和51年（1976年）9月12日10時28分、長良川右岸堤が上流の安八町大森で決壊しました。破堤口から安八町内に流れ込んだ濁流は、最も弱点である輪中の上流から輪之内町を目指して流れ、町内には避難命令が発令され、「十連坊」の補強に全力が投入されました。「十連坊」の切割と「南波」の切割を土嚢により締切る作業が続けられ、ようやく輪中堤の封鎖が完了し、輪之内町への流入をくい止めることができました。



輪中堤でくい止められた洪水氾濫（昭和51年9月洪水）

- 福束輪中堤「十連坊」は、昭和51年9月の長良川決壊による安八水害時に、輪之内町を水害から守った歴史があり、謹節老人クラブが（本戸・中郷）の人々が、先祖の残した遺産を後世に引き継ごうと、昭和57年に十連坊1.6kmに、ソメイヨシノと山紅葉が交互に約300本植えられました。現在では約550本ほど植えられており、平成19年には、岐阜新聞が選んだ「岐阜県の新百景」に選ばれました。その他、アジサイロードには、ハナミズキ、ナンジャモンジャなど、花が楽しめる樹木も植えられています。

「十連坊」とは

- 「十連坊」は約400年余りに北側の中村川に沿って造られた輪中堤です。総延長2.5km、堤上巾4m、下部30m、高さ8mです。

■今も残る輪之内町内の輪中堤

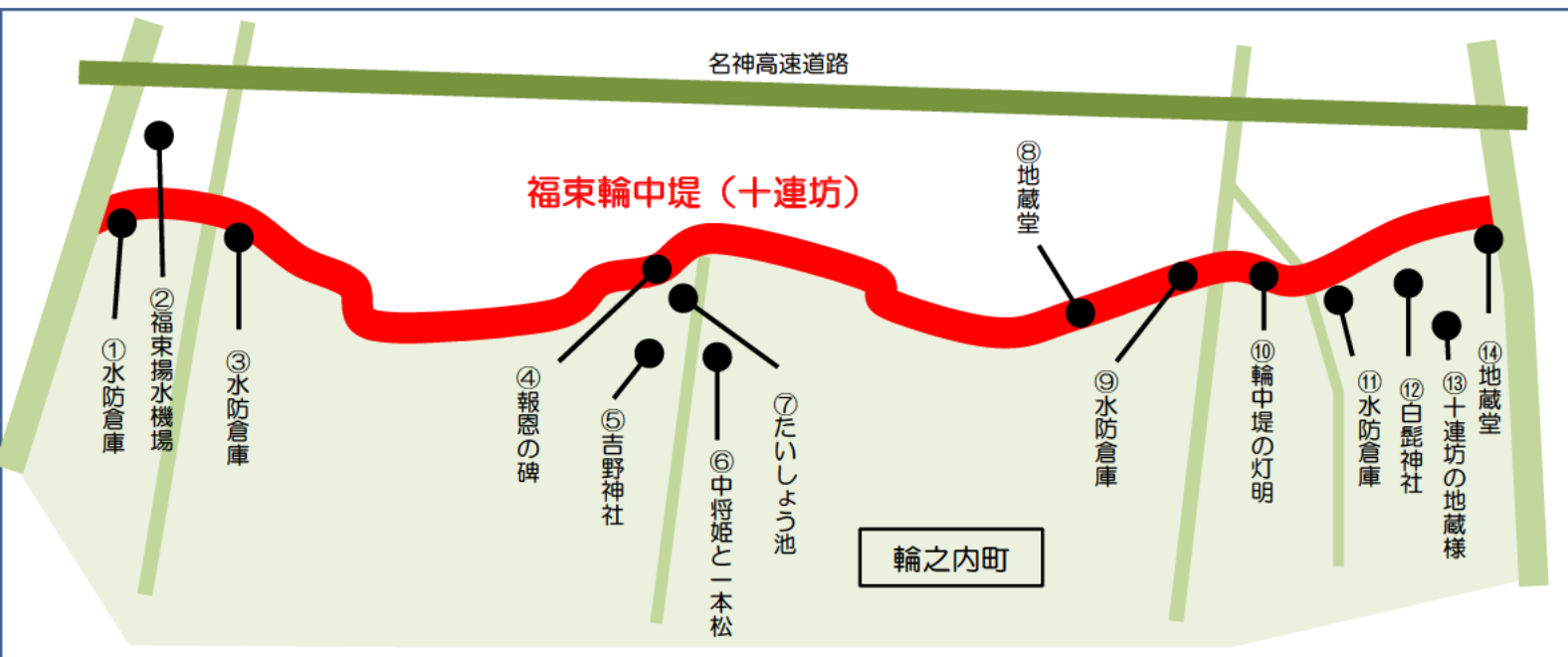


出典：伝統的防災施設パンフレット（岐阜県作成より）

⑤ 先人の叡智に感謝 「報恩の碑」

- 輪之内町の水害から守った輪中堤を感謝して、十連坊の中央付近に地元老人クラブの人たちの手で、「報恩の碑」が御影石で建てられました。
この場所は、昭和51年9月の安八水害の時に、杭が打たれ土嚢がたくさん積まれた場所です。





⑤ 吉野神社



- 祭神は吉野水分神で、ミクマリノカミは流水を疏通分配することを掌る神「クマリ」（配りの意味）で水を程よく分配して灌漑の用に供する神で、天之水分神国之水分神の二柱がある。用水の取入口に、祀る神として勧請したものと思われる。（出典：輪之内Walk Mapより）

⑥ 中将姫と一本松



- 約千年前、富豪の家に生まれた中将姫は、幼くして修行に出され諸国を巡った。本戸地区にも中将姫の隠れ住居があり、樹齢百年をこえる松があったことから、村民は一本松と呼んでいた。（出典：輪之内Walk Mapより）

⑦ 「片目の魚」伝説のたいしょう池



- 吉野神社の裏にたいしょう池がある。1656年の記録に、輪中堤が決壊して大きな池ができたと記録がある。また、この事に因んだ「片目の魚」という伝説もあり、絶滅危惧種のカワバタモロコが生息している。

「片目の魚」伝説



- 50年ほど前まで、吉野神社の裏に小さな池があり、このたいしょう池で捕れる魚は、不思議なことに片目の魚ばかりでした。池ができる前には、たいしょう寺という暮好きの和尚さんがいました。ある年の夏、福束輪中堤の北側を流る中村川が決壊した時も、和尚は相変わらず暮を打ち続けており、最後は寺や暮を打っていた二人まで飲み込まれ、大きな池を残しました。その後、ここに住む魚は片目でした。和尚が片目だったので村人は池の主になったと噂しました。（出典：ふるさと輪之内より）

⑨ 生きている福束輪中堤と陸閘



輪中堤切り割り封鎖訓練 (写真：輪之内町提供)

⑩ 堤防決壊のあと 「後世に伝承警告」



- 福束輪中堤「十連坊」には、切割の西側に燈明さんが建っている。この燈明は、今から200年前に建てられたと伝えられている。そばに近づく大神宮と刻んであるように、伊勢神宮の遥拝所の他にも、もう1つの役割がある。この燈明のすぐ北側に中村川が流れており、中村川は、長良川と揖斐川とを結んでいる川で、長良川が増水すると揖斐川へ、揖斐川が増水すると長良川へ、2つの大川の水の量を調節する働きを持っていた。ある年、大変な長雨が続き、中村川が増水し、ついに堤が切れてしまい、どっと輪中内に濁流が入り込んできた。村人たちは、二度と堤が切れないようにと願い、この燈明を建てた。(出典：現地案内看板より)

⑪ 水防倉庫



- 洪水時のために、水防活動に必要な道具や土のうなどの資材がストックしてある安全対策のための倉庫。この十連坊堤には堤防上や下に4箇所設置されている。

⑫ 輪之内町の守り神 「白髭神社」



- 輪中鬼門の宮・別名「里藤の宮」という輪之内町の守り神。新築する場合は境内の砂を持ち帰り屋敷に撒くと言う。(出典：輪之内Walk Mapより)

⑬ 十連坊堤の「腹切り地藏様」



- 十連坊には東西にお地藏様があり、東の地藏は、胴体に大きなひび割れがあり、別名腹切り地蔵と呼ばれている。(出典：輪之内Walk Mapより)